

会議記録（公開用）

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 26 年 7 月 25 日(金曜日)	開催時刻	13 時 30 分頃から 16 時 20 分頃まで
会議名	丸子地域協議会(平成 26 年度第 4 回)		
出席委員	斎藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、今井利樹委員、内田弘子委員、小澤厚委員、久保田和英委員、後藤有希委員、清水三枝委員、下村晴一委員、関本吉人委員、竹花光彦委員、塚越洋子委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、山岸嘉幸委員、吉池美智恵委員、吉田暘一委員 (【欠席】工藤委員、佐藤委員)		
市側出席者	片山丸子地域自治センター長、北沢丸子地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、清水市民生活課長、芦田建設課長、滝沢上下水道課長、黒岩健康福祉課課長補佐兼福祉担当係長、小相沢産業観光課課長補佐兼商工観光係長、翠川地域政策担当係長、清水統括主査、中山主査、竹花主査		
< 会議場所：丸子地域自治センター 4 階講堂 >			
会議次第			
1 開会（丸子地域振興課政策幹）			
2 会長あいさつ			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(会長) 皆さん、こんにちは。いよいよ本格的な夏がやって参りました。先日、梅雨が明けまして、その途端に暑い日が続いております。委員の皆さんには、健康に十分留意をしていただき、暑い夏を乗り切っていただきたいと思います。</p> <p>先日は視察研修がございました。全員の方は参加できませんでしたが、大変に素晴らしい研修ができたと思っております。本日、その報告も行われる予定になっております。</p> <p>本日は、わがまち魅力アップ応援事業の審査会です。2 件の応募が出ておりますので、その審査を最初に行いたいと思います。その後、本日は報告事項が 3 件、協議事項が 1 件ございますのでよろしくお願いします。</p> <p>なお、わがまち魅力アップ応援事業の選考審査につきましては、条件付き採択など、複雑かつ慎重な審議が必要となることや、個々の団体の今後の活動に支障があっては困るということで、非公開として審査をしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。</p> <p>簡単でございますが、開会に先立ちましてのご挨拶と致します。たいへんご苦勞様でございます。</p> </div>			
3 平成 26 年度わがまち魅力アップ応援事業（第 2 回募集分）選考審査			
会長・副会長も審査員となるため席を移動			
(1) 応募団体による事業説明 説明予定 10 分 質疑応答予定 5 分			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>< 下和子素浪人の会のプレゼンテーション ></p> <p>発表者：代表者 ほか 2 名</p> <p>事業名：地域の史跡整備と伝承</p> <p>(事務局・地域政策係長) 選考の申し込みについては、申請内容を確認し、事業内容等が</p> </div>			

この事業に該当していることを確認しました。関係課からの協議事項については、建設課から、史跡周辺の荒廃地の整備を図り整地等行う場合は、整地内の認定外道路（赤線）や用悪水路等の公共施設がある場合は事前に建設課への協議をお願いします。

その他に教育事務所から、地元の学習会につきましては是非分館の方と連携をお願いしたいという提案事項が出されております。

（説明者）概要について説明させていただきます。地域の景観整備と生活環境の継承ということで、下和子素浪人会では、ゆったり・ゆっくり心豊かにスローライフを過ごし、相互の連帯と融和をはかるとともに、かけがえの無い郷土の里山を育み、後世に引き継いでいこうという主旨と精神で平成19年に発足いたしました。翌年の平成20年度では、わがまち魅力アップ応援事業の助成を受けて花桃やゆきやなぎ、しだれなど各種の植樹と育成と、河川敷や土手の草刈、側溝のごみ除去等、河川景観保全事業を行ってきています。市からの補助金によりまして、発足以来6年目に入りますが、徐々にその成果が現れつつあります。

会員は主に60代から70代ですが、長年培ってきた経験と地域への還元意欲に益々意気軒昂で、健康上の理由による休会メンバーが多少いますが、新会員の加入により地域住民の親睦融和をはかり、和気藹々と活動しています。住民の高齢化や少子化が進む当地域における史跡の場所あるいは由来等は年々記憶から薄れるとともに荒廃化が進み、その整備と伝承が課題となってきています。

今年度から例年行っている活動に加えて新しいプロジェクトとして、長年地域住民の生活と命を支えた湧き水の史跡や、精神的な支えとなってきた合併舎あるいはお地蔵さまの史跡について、その正確な由来を調査したり、その場所を掲示して荒廃化した史跡周辺の雑木の伐採を行い、整地したり植樹をして、その参道を整備して後世に伝承していく事業を計画しました。

年々、高齢化が進むに連れて、この事業を5年間かけて実施することは当地域にとりまして意義あることでありますので、場面場面で自治体なり公民館なりに働きかけをしまして、協力をいただきながら、会員を中心として本事業に取り組んで参りたい。年間40万円くらいの補助金を、魅力アップ応援事業として申請させていただいています。荒廃化した史跡の整地、土砂とか杭、植樹の苗などの材料費として組んでいます。

2年目から3年目につきましては、いわゆる史跡の調査研究ということで、精神的な支えとなってきた合併舎、通称お稲荷さんと呼んでいるのですが、稲荷神社と各所にあった氏神様などを集めた合併舎となっております、小玉川神社とも言っていますが、その場所を整備していきたい。

長年、湧き水が入ったり、お地蔵さんがなんであんなところにあるのかとか、歴史とか地域住民でもわかりにくくなってきていますので、調査研究を行って、近隣の史跡の詳しい方において願って、調査した上で5年目にその史跡の看板設置やら参道整備を仕上げたい。

<鹿教湯商工会のプレゼンテーション>

発表者：代表者 ほか3名

事業名：鹿教湯里山セラピー公園活性化事業

（事務局・地域政策係長）申請内容を事務局で精査しました。関係課からの協議事項・ア

ドバイスとしまして、産業観光課からは、休み処・あずま屋の建築に当たりましては、建築確認などの手続きが必要になりますので、事前に建築指導課の方にご相談いただきたい。また、提案事項と致しましては、間伐事業以降、地元の皆さんが計画的に整備する事業を今回さらに新しい取り組みで地域を守り活性化を進める事業で、鹿教湯地域では様々な事業が展開されており、地域の皆さんが何とかしようという意気込みが感じられます。地元の皆さんの協力と連携による事業展開に期待をしておりますということで、産業観光課からの調書が出ております。

建設課からは、ノルディックコースやマウンテンバイクコースを整備する場合、整備地周辺に認定外道路、いわゆる赤線ですとか、用悪水路等の公共施設がある場合は事前に建設課にご相談くださいとのことです。

(説明者) 鹿教湯を抜けまして、内村ダムとの丁度中間点あたりのこちらから行くと左側の山の斜面になります。鹿教湯里山セラピー公園で、現在、マレットゴルフ場があります。その場所は、昭和20年代に鹿教湯スキー場が出来まして、2～3回依田窪スキー大会が開催されました。しかし、何分にも雪が少なく、3回くらいで中止になりまして、その後桑畑としてずっと長い間養蚕を支えてきたわけです。それもご存知の通りとなりまして、その後はカラマツやヒノキ、松などを植えた山林となっていたわけです。地権者は28名。そして、当時の丸子町と合計29名の地権者の皆さんでございました。そこを私達は、上のほうから集団間伐事業を町・県でやっていただきまして、そこを借りることになったのです。地権者の皆様にお集まりいただきまして、私達の計画をいろいろお話して全員の方の承諾の下に事業が始まりました。当時マレットゴルフ場を中心としまして健康づくりの場所としての計画をたてたわけですが、県のほうから頂く元気づくり支援金、それから町のほうから頂く住民提案型事業の資金を中心に鹿教湯観光協会、旅館組合、商工会等の地元の各団体からのお金、そういったものを合わせましてもなかなか思うようにいかない。そんな中、修学館高校から協力をいただきまして、そのなかの遊歩道の整備につきましてはほぼ予定通り完成をみたわけです。しかし、いちばんの、ゆっくりと、また雨風をしのいでいただくお休み処、あるいは近代的トイレはどうしても出来なかった。その中で、計画が十分に出来なかったのが現状です。

マレットを中心にやってきましたが、マレットということになると当時の丸子町には天下山マレットゴルフ場がございましたし、合併後は武石にも同様の立派なマレットゴルフ場があります。マレットということでは、これからも自分たちの団体でやるものでは上手くいかないだろう。そんなことで今年真剣に考えまして、原点に戻ろうということになりました。健康づくりの場所として、もう一度考え直そうとしたわけです。当時の計画から10年近く経っておりますので、今の新しい健康づくりのものを取り入れなければ、これからは駄目であろうということで考えたのが今回の企画です。今回も長大と修学館には御協力をお願いすることとなっております。そういったことをご検討をお願いします。個々の事業につきましては、斎藤さんのほうからご説明をいたします。

(説明者) 里山セラピー活性化事業については、今委員長から説明のあったとおりです。今年度の事業について、説明させていただきます。今年26年度は、修学館高校と長大の協力を得まして調査研究ということの一つの主眼にしております。今年でも出来る事業は進めようという事で事業計画を立ててあります。

1. 自然探勝ゾーン(野鳥観察、植物観察、展望台、撮影ポイント等): 敵地を選択し環境

整備と案内標識の設置を進めて行きたい。

2. ウォーキング、散策コース（里山ノルディック等）。これについては昨年、斎藤ホテルさんが鹿教湯で実行したということで、そのノウハウや意見等を聴いて、内容を充実していきたいと思っています。ウォーキングマップの製作とか、案内標識の設置。ノルディック用具の購入。今年、10組ほど購入予定。鹿教湯に来て頂いた方にノルディックを体験して頂き、文化を根付かせていったらどうかと思っています。

3. あいあい広場（出会い、触合い、語らいの場）。自然の地形を活かした木製を主体とした安心、安全な遊具、ストレッチ用具のデザイン、設計を修学館高校に依頼したいと思っています。実際に修学館高校にこの事業に取りかかってもらうのは2学期9月からになる。今年設置することは難しいので調査研究という事で、来年、この計画に基づいた計画を進める予定です。

4. マウンテンバイクコース整備。関係者に調査研究をしてもらう。コースについては今ある里山の道をそのまま活用して、案内標識などを設置していく予定です。

5. 里山自然園（山野草園、ハーブ園、きのこ園等）。珍種や貴重植物の保護。抱きつきの木（癒しの木）。木に抱きつくとも木の精霊のおかげで人間元気になるとも言われてます。そんな木を作っていく。これはご案内するだけです。お金がかかるとは思っていません。茸の森、小学生が里山教室で原木作りをしてもらったらどうか。今、PTAなどと話を進めているところです。愛郷会（鹿教湯の地元の老人クラブ）による花の植栽。これは既に植栽済です。

6. 宣伝・広告。車で通るとセラピー公園はなかなか分かりにくいということで、国道の沿線に旗の設置をしたい。10本ほど計画をしています。それから、佐藤新聞店でやっていますタウンニュースへの掲載を2回計画しています。内容が整い次第、パンフレット製作もして行きたい。

7. お休み処の設置。地域住民との協働で建設していく予定になっています。

8. 管理・運営。これは今までも行ってきたことです。

9. 小学生の里山教室の開催。地元の小学校・PTAの協力で実施していきたい。

10. 活用、整備等について調査・研究を長野大学に協力依頼をしていく。

今年の事業については以上です。

2団体の発表者はここで退室した。

開始からここまで1時間5分程経過

(2) 選考審査【非公開】

報道関係者及び傍聴人は非公開のため録音を停止し、一時退席

非公開につき会議の記録を省略

採点結果：下和子素浪人の会 6 1.50

鹿教湯商工会 8 2.57

付帯意見等については、後日配布していただきます。

応募事業にかかる委員からの意見・要望・コメント等数点あり

協議会再開：報告事項の開始時刻 15:30～（報道関係者・傍聴人の再入場許可）

4 報告事項

(1)「雑がみ回収袋」導入による自治会説明会開催状況について

(市民生活課長)開催期間は平成26年6月6日(金)から6月28日(土)までで、開催自治会は12自治会でした。この時に「雑がみ回収袋」を配布しました。説明会を行わなかった自治会は、説明会以後に雑がみ回収袋を配布しましてほぼ終了しています。出席者は474人で、多いところでは80人を越えるところもありました。

説明内容につきましては、ごみの減量化・再資源化の取組みについて、「雑がみ回収袋」の導入の方法と、減量化の新たな取組みとして通風乾燥型の生ごみ処理機の紹介をさせていただきました。資源循環型施設の建設につきましては、希望された自治会に説明しました。説明者は市民生活課、上田地域広域連合、資源循環型施設建設関連事業課です。

主な質問や意見についてですが、(1)雑がみの出し方について、は雑がみの分別が難しいということで、既に雑がみについて分別回収を頂いている丸子地域ですが、細部については難しいところもございまして、全戸配布した手引きを参考に分別をお願いしたいという説明をしました。使用済はがきやお子さんもテスト等を出すときに、個人情報心配との声がありますが、この場合には切り離すとか、手である程度細かくちぎってお出し頂くようお願いしております。シュレッダー破細紙につきましては、シュレッダーをかけたものだけを集めれば再生利用できるのですが、家庭ごみの場合、シュレッダー紙に他の物がまじってしまうと分別が困難ですので、この場合は不可にさせていただきます。

紙袋に入れて縛って出すという方法があるのですが、この場合、外から見えないものですからリサイクルできないものが混じる率が高くなる心配があるということで、丸子地域では出来るだけ青色ネット回収へ出していただき、市としても分別について周知をして参ります。

雑がみ回収袋の配布ではなく、丸子の青色ネット回収を全市に普及させるべきではないかとの御意見もございました。上田地域でも複数の自治会でモデル事業的に始めたとのことですが、今後検討させていただきたい。

そのほか、雑がみの回収量が増えると予想されるので、回収頻度も増やして欲しいとか、雑がみの回収量が増えれば自治会への交付金も増えるのか、事業系のごみの減量についてはどのように考えているのか、市では生ごみ堆肥化を行わないのか、などの質問を受けております。

資源循環型施設の質問もございまして、現在の処理能力より小さい施設を造る理由は何か、新施設の完成時期はいつか、既存の施設を大事に使いたい、新市になったからといって新施設を建設するのはいかがなものか、資源循環型施設が建設された後はごみの分別をする必要が少なくなるのか、新たな焼却施設では何故プラスチックごみを焼却しないのか、等の御質問・御意見がございました。

今後の取組みについてですが、雑がみの回収につきましては、全自治会への第1回の雑がみ回収袋の配布はほぼ終了しました。年内に第2回目の配布ということで、大小各1袋をもう1回配布いたします。これは配布のみを行うものですが、もし説明を求められた場合には自治会説明会も対応いたします。今後、回収量の比較等により雑がみの回収状況の検証を行い、雑がみの分別・回収の徹底を図ります。

生ごみの減量化については、生ごみ減量化の促進や減量化機器の普及を図るため、「通風乾燥型生ごみ処理機」のモニター調査を9月から実施する予定で、その結果をごみ減量化政策に活用する。丸子地域でもファーストビル1階で、負荷低減を図るような機器を展示

したり、11月開催の「消費生活展」などで展示をしていきます。

< 質疑・応答 >

(委員) 度々この協議会でも出ていますが、また資料の意見質問にも丸子地域では出来るだけ青色ネットに排出いただきたいとありました。もう1回雑がみ回収袋を配布するというのは、本当に無駄だという気がする。経費の無駄ではないでしょうか。

(市民生活課長) 今回の雑がみ回収袋は、これを機に雑がみを分別しようという契機として配布します。全市的に2回目を配布して啓発し、その後は行わないということにしたいと思います。御協力をお願いします。

(2) 地域内分権先進地視察報告について

(会長) 先日、7月の14、15日の2日間、三重県の伊賀市と名張市を訪問して、大変有意義な視察研修を行って参りました。都合により参加できなかった委員さんもおられますので、ここで視察の報告をしたいと思います。

(事務局 地域政策係長) 伊賀市と名張市は三重県の中でも北側に位置する隣接した市です。大阪までだいたい電車で1時間という事で、ベッドタウンとして人口も結構あるとのことです。伊賀市も名張市も一時、同じ任意の合併協議会に入っていたとのこと。

伊賀市は平成16年に6市町村で合併しまして、約10万人の規模。名張市は合併しないという選択をしまして、約8万人の規模です。まちづくりの組織に関しましては、それぞれ小学校区単位で伊賀市は38地区、名張市は15地区ということで別れてまちづくりを進めているとのこと。両市とも交付金制度、各住民自治組織がありまして、伊賀市では地域高額交付金という名称でした。名張市では、ゆめづくり地域予算制度という交付金制度がございます。

両市とも補完性の法則というところが重要となっております、それぞれを補っていきましょうという考え方でした。個人で出来無いものは家族で補い、家族で出来無いものは地域や自治会で補い、自治会で出来ないものは住民自治組織が補い、そこで解決出来ないものは行政・市のレベルで対応する。それぞれのレベルのところで補いながら補完していくというのが両市共通でした。

資料に先進地視察研修のキーワードを載せてあります。伊賀市の方は、「地域での情報共有が大切」、これは個人個人で考えているのではなくて地域で寄って集まって話をする、そこからいろんなものが始まるということでした。「地域でできる事は地域で」、「住民自治組織は実行部隊」、「住民自治とは、皆で考え実行していく場である」、「「地域の宝」を発見してもらおう」。また実際の活動の中では「物が売れることが生きがいにつながる」、「出入りを自由にする事で活発な組織になる」、「がんばり過ぎない、やり過ぎないことが長続きするコツ」、「「やりたい人はこの指止まれで」で持続が可能」、「女性が活動している地域は元気」。

名張市では、「NPOとの連携が力になる」、「自立していく「地域づくり」に」していかなければいけないこと、「女性が活発に動いてもらわないと地域が暗くなる」、「楽しくやってもらうことを発展につなげる」、「地域はがんばれる」力がある、「お年寄りと女性が元気なところは発展する」。

この研修を参考にして、これからの丸子地域置き換えまして、モデル地域の位置づけで推進していくことにつなげて参りたい。

(センター長) 出席された委員の皆さん、暑い中大変お疲れ様でした。只今事務局から説明ございましたが、補足をさせていただきます。根本的な部分：組織の部分、一括交付金、補助金という部分でございます。組織という部分でいいますと、私達で言えば地域経営会議の組織ですが、明確に条例で規定されているということです。伊賀市であれば自治基本条例、名張市であれば地域づくり組織条例、そういう部分で明確に住民組織や交付金についても謳ってある。上田市に置き換えますと、まずモデル地区でやってみる。その中で一般化していくのだということが、丸子地域協議会と丸子地域自治センターに課せられていると思う。

それから、新しい住民自治組織は自治会を母体にし、そこに各種団体やPTA等々が入っている部分で、その中で各自治連というのはどうなのか。発展的に解消という、そんな経過を辿ったようです。多くの抵抗もあったと聞いています。上田市ではそのような団体、東塩田地域の振興会、豊殿地域の振興会、西塩田の振興会などが、自治会とか各種団体を含んだ組織というようにイメージできるのですが、そういうものを指すというふうに私は解釈しました。

もう一つ、交付金・補助金については、自治会等への交付金・補助金、委託など様々な部分で行っているのですけれども、それを地域の皆さんと協議しながら廃止などして一括交付金にしていったというのが一点。それから、上田市ではわがまち魅力アップ応援事業をやっていますが、そういう部分を交付金とは別にする。それは、それぞれの住民自治組織の中できちんとした地域のビジョン、計画を作っていく。その計画を実行するために提案して、それに対して補助金が10分の8とか、交付される。上田市で考えると、わがまち魅力アップ応援事業など、地域をどのようにしていくのだということ。例えば、西内地区、東内地区をどうしていくのかということ。そのためにどういう事業をするのかという、補助金が提案されて交付決定されていく。その辺がわがまち魅力アップ応援事業とは違うのだと思う。あるべき姿は、計画があってビジョンがあって、それに向って事業をする。それに対して補助金を交付する。そういう点で、素晴らしい制度であると理解したところです。

組織という部分、補助金・交付金という部分で勉強になりました。皆さん方とともに、丸子の新しい住民自治組織を検討していくわけですが、その辺も踏まえてやっていきます。(会長) 御意見・御質問はございますか。また、参加された委員の皆さんには、感想等をお伺いしたいと思います。

(委員) 今、センター長がおっしゃった点など、今まで手探りで、どこに向って行ったらいいのか、何も見えなかったのが、今回の視察によって胸に落ちる部分もありました。特に名張市ですが、錦生地域協議会の会長さんが事業報告の説明をしてくださいましたが、まず自分たちの地域をどうしようという時に、自分たちの地域の歴史から追っていった。そこで、その事業を立ち上げていったというお話は、とてもうなずける部分がありました。女性部長さんの説明では、ここまで来るのには第2ステージのところがとてもしんどかったと。自治会との摩擦が多々あって、それを皆さんに納得していただくのに苦労したという。私達はその過程を辿っていかなければいけない道筋などかなと感じました。視察に行ってきたと思います。

(委員) 大変参考になったと思う。特に名張市で、市のあり方が合併ではなく自立をしたという部分、新市長のもとで非常宣言が出された厳しい財政の中で、皆がそれぞれ、行政

も地域住民もそれに向って、自分の地域をどうしていくのかという想いの中で自治組織が出来てきたのかなという印象を強く受けました。行政がすごく頑張っただけで汗をかいたのだという感もありましたが、行政と地域住民の協働によって行われているという感じがありました。そして、名張市は住民と行政がともに地域のためにやっているという感じを強く受けたことと、伊賀市、名張市の両市で言われたことですが、女性が元気でないと駄目だということでした。丸子地域もしっかりやっていきたいと思っています。

(委員) 参加させて頂いてためになりました。率直な感想として伊賀市と名張市は、協議会の発足の原点が全く違うが、でも目標は同じであると。伊賀市の場合には合併をしてその時点で将来をどうするのかという大きなビジョンを打ち立ててそれに向って一本になったという。名張市は、合併を選択しないで単独で頑張るといふ。非常に厳しい状態が予測されるなかで、合併を選択しなかったところからスタートしている。上田市、とりわけ丸子地域を考えた場合に、何を選択して今後やっていくべきなのか。視察した両市の良いところを取り入れて、前向きに進めていきたいと思っています。

(委員) 視察に行く前までは、地域内分権がなぜ必要なのかが率直な疑問でした。今も、その疑問は半分以上残っている。何で必要なのか。

伊賀市も名張市も小学校区単位で地域経営会議を立ち上げている。そうすると、丸子地域自治センターの場合はどうなるのだろうか。それを考えながら説明を聴いていました。補助金交付金が変わった名張市は1億5千万円、職員は162人が減ったと部長さんがおっしゃっていました。良い事だなと思いましたが、何のためにやるのかということが、まだはっきりわからない。地域内分権を自分たちでやらなければいけないと言っておりますが、22日も地区内の会議がありました。そこが皆さん納得できない。実際に、現状のなにが不便なのか。そのあたりがまだクリア出来ていないのではないかと。きちんとした、説明できる答えを自治センターには出していただければありがたい。

(委員) 小さな自治会単位の地域力、それを本当に付けておかないと取り残されてしまう地域も出てくると思いました。自分の住んでいるところではどうなのかと、視察から帰ってから気になるようになりまして。組織の中に取上げてもらおうという活力がまだ無い地域がまだ沢山ある。そのことを声に出していく。形にまとめていく。その延長線上に自治連絡会とかが出来ていく。まだまだ、私の場合には足元を見つめなおさなければいけない段階にあります。地域部の部長が実践してきたことを、自信を持って、誠実にお話いただいたことがとても心に残っています。

(委員) 私も視察に行ってきましたが、あまりよくわからなかったというのが正直なところです。地域に戻り考えますと、今後の自分の地域をどのようにしていったらいいのかというビジョンを考えて、そこには補助金などが付くのですが、ただ付かない場合や地域格差が出てくるが、そういったことをどのように解決すべきなのかということに少し心配になりました。出来るところと、出来ないところの調整をどのように調整を取るのか、心配な気がします。女性の活躍が大事であると思いました。

(委員) 単に行政に従うというだけではなく、自分たちでいろいろ考えて実行していくことを名張市で教わりました。自分たちも見習っていきたく思いました。

(委員) 名張市の錦生の会長のお話を伺ったのですが、この方はすぐ名張市の市長になってもいいし、上田市に来ていただいて市長をやっていただいてもいい、そんな個性と実行力、バイタリティのある素晴らしい方だと感じました。ということは、その組織が上手く

いくかいかないかということは、リーダーの力量がかなり影響する。これからは進めていくに当たっては、リーダーの研修などをどのように取り組むべきか。非常に重要な問題であろうと思いました。要するに、リーダーがしっかりしているところは伸びるし、資質のないリーダーのところは落ちこぼれていく。

自分の自治会の中では、共通の問題点をすぐ拾うことが出来るが、今回のように小学校単位であるとか、旧村の単位に広がったときに、どのように皆で共通テーマを拾い上げていくのかが非常に重要で難しい問題である。地域の山などの共有財産の問題などはたやすく見つけることが出来た。今後、どのように進めていくべきか、やはりリーダーの育成と共通問題をどのようにすべきかを、自分たちでもう少し時間のある限り考えていかなければいけないと考えます。

(委員)一番印象に残ったのは、合併と同時にどうするのかという住民の考え方がすごいと思いました。名張市では住民が合併を選択しなかったこと、その原点がすごいと感じました。女性が元気なところがいいというお話もございまして、ふつう会議は男性が多いですね。やはり、女性の声も大事にしてもらいたいですね。

リーダーの力量もすごいし、専門家を招いて勉強を重ねたというところも感心しましたが、行政が入って300回も説明を行い住民への理解を求めたと伺い、そういうところから始めなくてはいけないのだと思いました。大変勉強をさせていただきました。

(会長)それぞれの委員さんご苦労様でした。視察報告につきましては、事務局から8月16日発行の丸子地域自治センターだよりへ掲載し、住民の皆さんにも広くお知らせしていただけるということですのでよろしくお願ひします。

(3) 分科会及び研究会での検討状況について

(ア) 丸子地域の公共交通に関する分科会

(会長)前回の協議会の後、新メンバーにより平成26年度の第1回公共交通分科会が開催されました。主な協議概要をご報告願ひします。

(委員)前回は、新しい委員の方にも参加していただき今までの活動経過の報告を致しました。本日、再度活動について担当委員に報告します。

まりんこ号のラッピングデザインにつきまして、県知事選挙の期日前投票所の横に展示しています。予定としては7月21日から8月22日までの約1ヶ月間展示をして、投票していただきたいということを分科会で決定しまして、現在実行しております。自治センターだよりのほうにも掲載する方向で進んでいます。分科会としましては、市民の皆様の投票の中から、投票数にかなり左右されますが、ダントツに投票数があれば分科会から協議会本会へ上げる。そうでなければ、3点程度を推薦する予定です。

本日、委員の皆さんも投票をお願いしたい。丸子修学館の生徒の皆さんの気持ちも見てください。

また、丸子有線放送につきましても放送していただくことになっています。

<質疑・応答> なし

5 協議事項

(1) 研究会担当委員(案)について

(会長)前回の地域協議会では、分科会の担当委員が確定し、研究会は2つの研究会を立

ち上げたところでございます。本日はその研究会の担当委員を確定できればと考えます。
(事務局 地域政策係長) 前回は分科会の担当委員さんをお決めいただきました。本日は、研究会の担当委員をお決めいただければと思います。担当委員案を提示させていただきます。

分科会が既に3つ立ち上がっている関係もありますので、すぐに研究会の会議をとすることはなかなか難しいかと思えます。予め担当委員さんをお決めいただくところまで本日もお願いしまして、実際の会議開催は後段でご相談申し上げたいと思えます。研究会の最初の会議のときに、座長等をお決めいただければと思います。

なお、斉藤会長につきましては、本年度は上田市全体の地域協議会の会長会のほうの会長もお勤めいただいております、研究会につきましては総合的にみていただくという観点で、個別の担当からは外れていただくという形で事務局案を提案させていただきます。委員の皆さんにつきましては、旧カネボウ食堂棟の活用に向けた研究と上丸子商店街の活性化の研究のご興味のあるほうへ入っていただければと思います。

(会長) 事務局案について、ご自分の担当について変えてほしいということがあればお申し出ください。

*** * * 質問意見なし。事務局案のとおり、研究会担当委員が決定。**

(旧カネボウ食堂棟活用研究会 8名、上丸子商店街活性研究会 11名) * * *

6 その他

(1) 次回以降の会議日程について

第5回協議会 8月26日(火) 第6回協議会 9月25日(木)

8月26日の会議の際には10月以降の会議開催案を事務局から提案。

(2) その他

(丸子地域教育事務所長) 当日配布資料について説明します。まず、第52回信州上田 丸子夏期大学についてです。昭和38年から社会的な問題を取上げて著名人を講師に招いて開催し、今年で52回目を迎えました。今年のテーマは、「魅力ある地域づくりを推進する」です。8月20日の杉尾秀哉氏の講演を皮切りに、全5講座を丸子文化会館小ホールで開催します。主催は、丸子夏期大学運営委員会、上田市、上田市教育委員会、上田市公民館、丸子文化協会。運営委員会に委託しこの事業を行っています。運営委員会では、講師の選定から当日の運営までを担っていただいております。講座の中で、丸子文化協会が主催するものは8月27日です。また、今年は新たに上田市商工会が事業を担当する9月4日の真田丸作成に併せた真田幸村の生涯を、神田山吹講師が講談を行います。

交通手段のない方や障害のある方には、無料送迎を行っております。また、周知は広報うえだ8月1日号に掲載します。ご都合がよければ、是非ご出席いただければと思います。

もう1枚の資料は、ブルームフィールド市郡の交流事業についてです。ブルームフィールド市郡は、アメリカ中西部のコロラド州の州都デンバーから車で1時間くらいのところにあります。人口は約55,000人程度。

本年度は受入れの年に当たります。期日は8月1日から10日までの10日間。初日の8月1日は市長の表敬訪問、その後歓迎会を行い、全員がホストファミリー宅でホームステイをします。市内6箇所の催し物に参加し、信州の海：上越でも海水浴に出かけます。丸

子地域で行う内容としましては、8月2日の記念植樹、これは、昨年はブルームフィールドで櫻を植樹しました。そのお返しに、今年は丸子パークでもみの木を植樹します。この日の夕方には、丸子ドドンコの踊りに参加します。

8月7日の午前は、スポーツ交流としてマレットゴルフを予定しています。上田国際交流を進める会の皆さんと行動を共にしておりますので、お見掛けしましたらお気軽にお声かけをいただければと思います。

ブルームフィールド市郡との交流の発端は、平成13年に丸子町とブルームフィールド市で「友好都市提携」を締結して事業が始まりました。その年は丸子町の派遣でした。以後、交互に派遣と受入れを行っています。対象範囲は、平成21年度から上田全域の中学生を対象に募集を広げました。

派遣履歴、受入れ履歴は記載の通りですが、今年は学生6名、引率者3名の計9名がこちらに参ります。震災等で中断はありますが、事業が継続して行われています。

(建設課長) 河川協会からの河川愛護の推薦について若干お知らせします。長野県河川課の外郭団体として長野県河川協会がございます。各建設事務所単位で支部がありますが、上小支部を上田市長が努めておりまして、毎年5月あたりに昨年度の実績をもとに3団体程度推薦するよう照会があります。丸子地域からは、3団体の推薦を行いました。他の市町村の推薦がなかったこともありますが、下和子素浪人の会(平成23年設立)、石井河川愛護会(昭和53年から活動)、長瀬西組河川愛護会(昭和54年設立)が認められました。この7月31日に県庁で表彰をうけることになりましたのでお知らせします。

7 閉会

* * 全体会終了後、各分科会を開催。(16:30頃~)

公共交通に関する分科会	: 3階第4会議室
丸子地域の子育て支援に関する分科会	: 3階第3会議室
新しい観光分科会	: 3階第1会議室